

# あしがきのあしがき ~著者から人事担当者へのメッセージ

## 『課長のための「やらない」教科書』



2016年12月刊  
発行：三笠書房  
販価：1,404円

### 主な内容

- 「教えない」部下と一緒に考える習慣を根付かせる
- 「叱らない」期待を投げかけることで部下の能力を伸ばす
- 「仕切らない」会議を活用して、部下の主体性を発揮させる
- 「つき合わない」ノミネーションは使わない
- 「なびかない」いい人にならない勇気を持つ
- 「話さない」上司に求められる「傾聴力」の習得方法
- 「残らない」課長に求められる「引き算」の発想術

### 課長たちは皆、元気がない

「うちの課長たちは元気がない」。そういった悩みを、人事担当者様から耳にすることが最近増えています。皆様も同じようなことで頭を悩ませてはいませんか？

成果が出なければ「指導方法が悪い」、ちょっと叱れば「パワハラだ」と、上からも下からもプレッシャーを受け、板挟みになっているのが中間管理職である課長です。

私が人材育成コンサルタントという立場で、そのような課長の皆さんと、研修現場で出会うと、多くは「課長としてやらねばならないことは理解していても、なかなか行動に移せない」と言います。「やらねばならないこと」だらけで、がんじがらめになって、必死にもがいている彼らの姿が垣間見られます。

そういう私自身もJTBのマネジャー時代に、プレイヤー時代とは

全く違った環境に戸惑い、苦しむことが少なくありませんでした。「課長」という、憧れのポストを手に入れたものの、「やることだらけ」の日々に閉口したことを覚えています。

### 「やらない」マネジメントの提唱

新人研修の場で「将来、課長になりたいか？」と聞くと、手が拳がるのは、せいぜい2～3割程度です。女性に限るとその割合は大きく下がり、1割程度になるでしょう。「女性活躍推進」を推進するわが国にとっては、かなり深刻な状況ですね。

まさに、今の時代は課長受難の時代ともいえるでしょう。

そんな彼らを、私は、何とか元気づけたい。もっと活き活きとマネジメントに関わってもらえないか？と考えています。本書を企画した意図はそこにあります。

ドラッカーの劣後順位の考え方



株式会社オフィスたはら  
代表取締役 田原 洋樹

に基づいて、数多くの「やらねばならないこと」から、大きく7つの「やらないこと」を本書では提唱しています（左記参照）。

本書を通じ、「やらねば」から「やらない」への、逆転の発想を促すことで、慢性的な疲弊状態に陥っている、中間管理職である「課長」たちを少しでも元気づけることができると考えています。

### 再び、華のポストへ

いつかは「課長になりたい」、我々が新人社員だった当時、誰もが憧れたポストは今や、なりたくないポストの筆頭になってしまいました。

再び「課長」が華のポストに返り咲くためには、「やらねばならない」と拳を固く握りしめ、自らを鼓舞するのではなく、「やらないこと」を意思決定し、肩ひじ張らずに、仕事を楽しむことの意識の変容が必要です。

ただし、変化には勇気が要ります。今年1年の始まりに、ほんの少しの勇気が、大きな変化への一歩になるかもしれません。

本書が、そんな勇気ある課長にエールを贈る、1冊となればいいと願っています。